

「陶磁器の未来へ努力」

多陶商が創立130周年式典

多治見市内の陶磁器卸売業者でつくる多治見陶磁器卸商業協同組合(多陶商)

は9日、創立130周年記念式典を多治見市新町の市産業文化センターで開いた。来賓や組合員ら約15

0人が出席し、節目を祝った。

多陶商の前身の「多治見陶器商組合」は1894(明治27)年に誕生。1934(昭和9)年に協同組合の「県西部陶磁器商業協同組

合」となり、49(昭和24)年に今の名称となった。現在の組合員数は90人。

式典では、多陶商の安藤英利理事長が「美濃焼業界は厳しい状況だが、多治見市や東濃西部3市のアイデンティティーとして、陶磁器産業があって良かったと市民に思ってもらいたい。切磋琢磨し、絶えることのないよう未来に向け努

力していく」とあいさつした。

来賓の高木貴行市長、田代正美多治見商工会議所会頭、日本陶磁器商業協同組合連合会の坂崎義雄理事長、県陶磁器工業協同組合連合会の松原朝男理事長らが祝辞を述べた。功労者に感謝状を贈り、加知康之東濃信用金庫理事長の音頭で乾杯した。(小森直人)



記念式典であいさつする安藤英利理事長＝多治見市新町、市産業文化センター